

## 海外旅行と感染症

### 「輸入感染症」

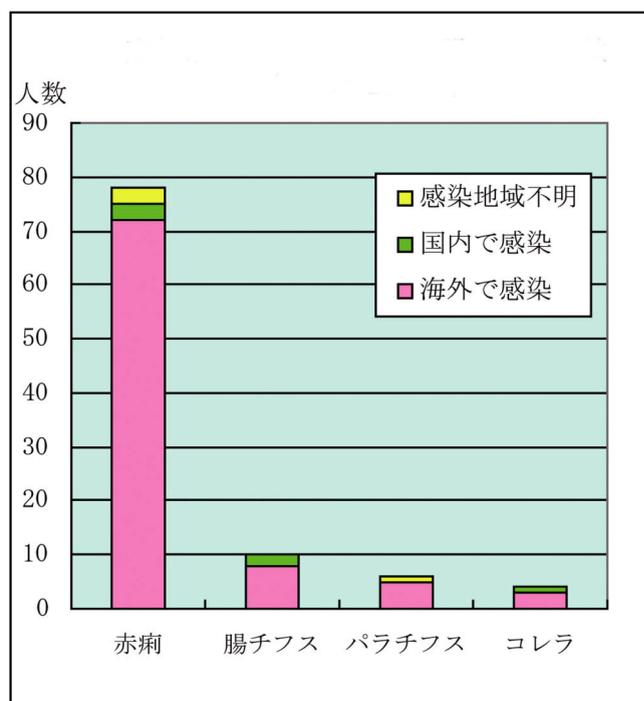
日本は石油をはじめ肉や野菜といった食品など、さまざまなものを海外から輸入しています。多くの輸入品は私たちの生活を豊かにするために持ち込まれますが、ときに私たちにとって好ましくないものが国内に持ち込まれることがあります。感染症も“輸入”されると困るものの一つでしょう。日本ではこれまで発生や流行がない、あるいは一度は克服された感染症が海外から国内に持ち込まれたものを「輸入感染症」といいます。輸入感染症の国内への侵入経路は輸入食品、動物や人の移動などいくつか考えられます。

気軽に海外へ行けるようになり、旅行者が感染症を持ち込むことも少なくありません。

輸入感染症の例として細菌性赤痢（赤痢）、腸チフス、パラチフス、コレラについてお話しします。これらの感染症は過去に日本でも流行していた感染症です。近年は衛生状態も改善され国内での大きな流行は報告されなくなりました。

右のグラフは京都市における過去5年間（2000～2004年）の感染者数（届出数）を示したものです。感染者の多くが海外旅行で感染していることがわかります。つまり感染症を輸入していることとなります。

京都市における過去5年間の感染者数  
(2000年～2004年)



### 「感染症を知りましょう」

海外旅行に出かけると必ず感染症にかかる訳ではありません。「敵を知り己を知れば百戦危うからず」という言葉があります。敵すなわち感染症のことを知れば、むやみに恐れることはありません。また海外は日本と気候、風土が異なり、慣れるまでは体調を崩しやすいものです。己（自分）の体調を確認し、少しでも具合が悪ければ無理をしないことも重要です。

先にあげた赤痢，腸チフス，パラチフス，コレラはいずれも主に経口感染（病原菌で汚染された水や食べ物などを飲食することで感染）します。食事は旅行の楽しみの一つとは思いますが，これらの感染症の流行している地域では生水や生鮮食品の飲食は避けましょう。氷や非加熱の食品（フレッシュジュースなど）も感染の原因になります。赤痢，腸チフス，パラチフス，コレラは病原体が腸などに感染し，下痢や腹痛を主な症状とする消化器感染症です。これらの病気は正しい治療をすれば完治します。しかし，病気になった本人は苦しい思いをしますし，場合によっては他の人に病気をうつしてしまうかもしれません。患者の家族や旅行の同行者を調査した結果，感染が確認されることもあります。

### 「実際の感染例」

感染の原因特定は非常に難しいのですが，海外旅行中の食事をホテル（衛生状態が管理されていると考えられます）で摂っていたにもかかわらず赤痢とコレラに感染した例を紹介します。調査の結果，旅行中に一度だけ川で水浴びをしたことが分かりました。赤痢とコレラの流行地域であったため河川水中の病原菌が口に入ったと考えられます。この例では旅行の同行者にも赤痢感染者が確認されました。食事だけでなく，河川水にも病原菌が含まれる事を知っていれば感染が防げたと思われれます。

### 「最後に」

この他にも海外には日本で発生や流行がない感染症があります。事前に旅行先で流行している感染症を確認しておけば感染の防止方法が分かりますし，旅行先によっては予防接種が必要なこともあります。

旅行中や帰国時に体の異常を感じたときは検疫所で申告をしましょう。病気の早期発見につながります。また海外から帰国したあと体調が悪くなり病院に行く場合は，いつ頃，どこの国へ行ったのか医師に伝えましょう。正確で早い診断の手助けになります。

最後に海外の感染症情報を知るお勧めのインターネットサイトを紹介します。

厚生労働省 検疫所『海外感染症情報（FOR Traveler's Health）』

<http://www.forth.go.jp>

外務省 『世界の医療事情』

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html>